

所在地 宮城県仙台市宮城野区安養寺三丁目
立地環境 七北田川および広瀬川によって形成された標高 30 ～ 100 m の河岸段丘
発見遺構 瓦窯、瓦・須恵器窯
年代 9 世紀後半

遺跡の概要

① 立地・地形

安養寺中囲窯跡は七北田川と広瀬川によって開折された七北田丘陵上にある。この丘陵は通称台原・小田原丘陵とも呼ばれ、丘陵南半に中世を除く古墳時代中期から昭和初期にかけての窯跡が分布している。これらの窯跡は「台原・小田原窯跡群」と総称され、安養寺中囲窯跡はこの群内の東部に位置している（第 1 図）。

1966 年に東北学院大学考古学研究部によって発掘調査が実施され、台原・小田原窯跡群における初めての調査となった（文献 2）。

② 規模・構造

調査では、丘陵南側斜面に並列して窯 5 基と灰原 1 か所を確認している（第 1 ～ 4・6 号窯。第 2・4 ～ 6 図）。第 1・6 号窯は後世の削平を受け、窯体の過半もしくは大半が失われていたが、第 2 ～ 4 号窯は比較的良好な保存状態であった。全長は約 5.5 ～ 6 m、焚口部幅 0.85 ～ 1.4 m、燃烧部幅 0.7 ～ 0.8 m、焼成部幅 0.6 ～ 0.9 m、焼成部底の勾配は 21 ～ 30° である。確認された窯はいずれも半地下式の窖窯で、第 2 ～ 4 号窯は無階無段である。第 1・6 号窯は階の有無は不明であるが、残存する焼成部に段は確認されておらず、おそらくは第 2 ～ 4 号窯と同じ構造であると予想される。

第 2 ～ 4 号窯では焼成部に焼台として使用されたと考えられる平瓦・丸瓦が敷かれており、第 3・4 号窯ではそれが焼成部床のほぼ全面に敷設されている状況が確認されている。また、第 2 号窯の敷平瓦には 2 回以上火を被った痕跡が確認されており、第 2 号窯は少なくとも 2 回以上使用されたと考えられている。加えて、第 4 号窯では、敷瓦の上部および下部から軒平瓦・軒丸瓦類が出土しており、このことも窯の 2 回以上の使用を裏付ける根拠とされている。

③ 出土遺物

瓦類が最も多く出土しており、中でも、焼成部の敷瓦として使用された平瓦が最も多い。出土した完形品の大きさは、長さ 36 ～ 40cm 前後、広端幅 25cm 前後、狭端幅 15 ～ 25cm 前後である。凸面には縄叩き目の痕跡を残し、凹面には布目痕が残る。

また、いずれの窯からも軒丸瓦が出土しており、特に第 4 号窯からは敷瓦の上に窯と並行に 3 本並んで出土していること、完形品が 10 本出土していることなどから本窯跡は軒丸瓦を中心に焼成した窯であると考えられている。軒丸瓦は、宝相華文（2）、細弁蓮花文（1）、齒車文（3）、無文（4）の 4 種が出土している（第 3 図）。無文以外の 3 種については、多賀城政庁第 IV 期の瓦群と同型式と



第 1 図 安養寺中囲窯跡の位置

考えられ（細弁蓮花文 310B、宝相華文 422、齒車文 427）、本窯が貞観地震からの復興期に操業されたと考えられる年代的な根拠資料となる。さらに特筆すべきは、4号窯からの出土状況であり、敷瓦の上部から細弁蓮花文軒丸瓦と齒車文軒丸瓦が、下部から宝相華文軒丸瓦が出土していることである（第6図）。このことから、宝相華文軒丸瓦→細弁蓮花文・齒車文軒丸瓦の順に焼成したと推定されており、同時期に納まる型式の瓦の中でも、若干の時期差をもって製作されたことがわかる。

なお、無文軒丸瓦については、細弁蓮花文の中に范の劣化が進んだものがあるため、そうした范を利用したものと考えておきたい。

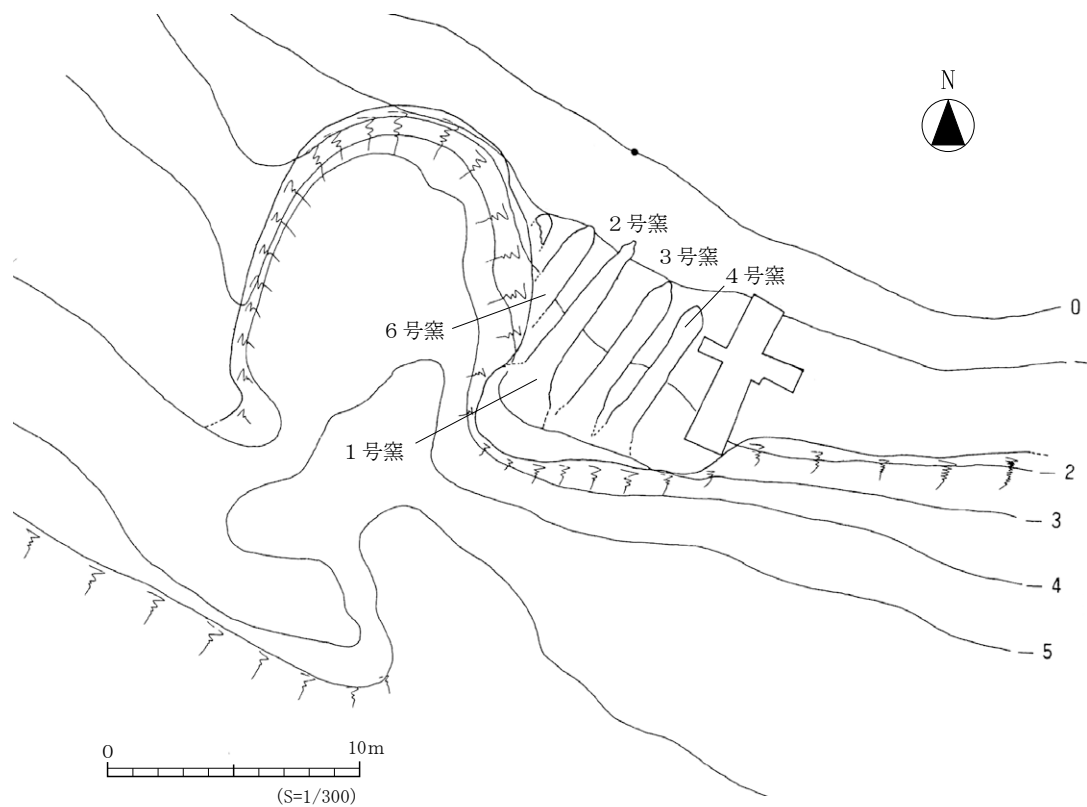
その他、均整唐草文軒平瓦（均整唐草文 721B）や須恵器（底部回転糸切）、風字硯が出土している（第3図）。（瓦の分類・型番は『多賀城跡 政庁跡本文編』（多賀城研 1982）に依拠した。）このうち、須恵器坏は9世紀第3四半期の基準資料となっている（村田 1988）。

④ 供給先など

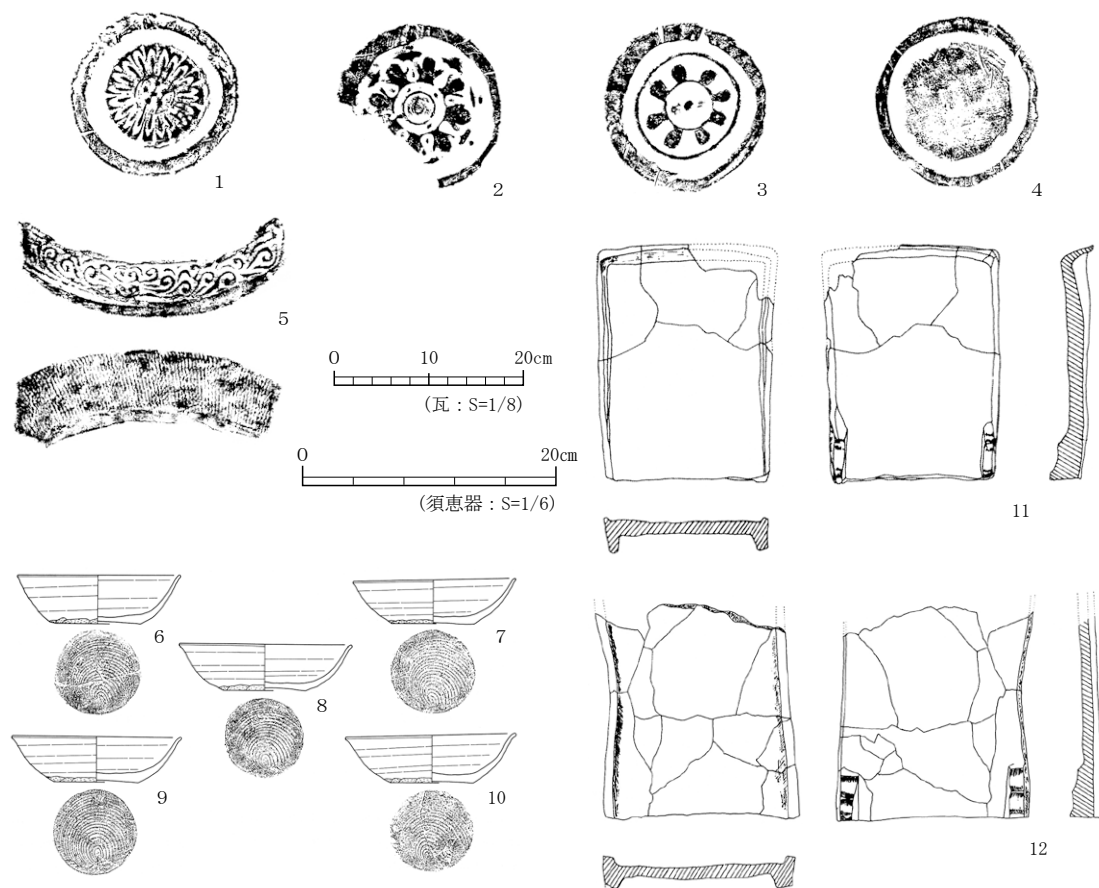
無文を除く軒丸瓦3種と均整唐草文軒平瓦は、多賀城跡、多賀城廃寺跡、陸奥国分寺跡から出土しているものと同型式であり、これらへの供給が考えられる。一方で、無文の軒丸瓦については供給先は不明である。

関連文献

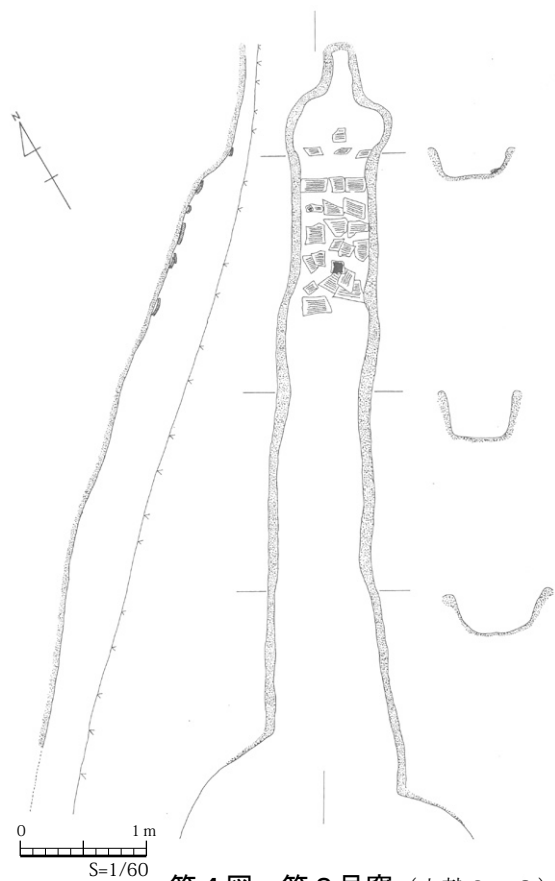
- 1 古窯跡研究会 1973「安養寺中囀瓦窯跡発掘調査報告抄」『陸奥国官窯跡群一帯の原古窯跡群調査研究報告一』古窯跡研究会研究報告第2冊
- 2 東北学院大学考古学研究部 1966『安養寺中囀瓦窯址発掘調査報告書』
- 3 東北学院大学考古学研究部 1967「安養寺中囀瓦窯址発掘調査報告」『温故』特集号
- 4 東北学院大学東北文化研究所 1968『宮城県仙台市原町小田原字安養寺中囀瓦窯址群出土品目録』東北学院大学東北文化研究所考古学研究資料目録第1冊
- 5 村田晃一 1988「宮城県黒川郡大衡窯跡群」『研究紀要』第14巻 東北歴史資料館



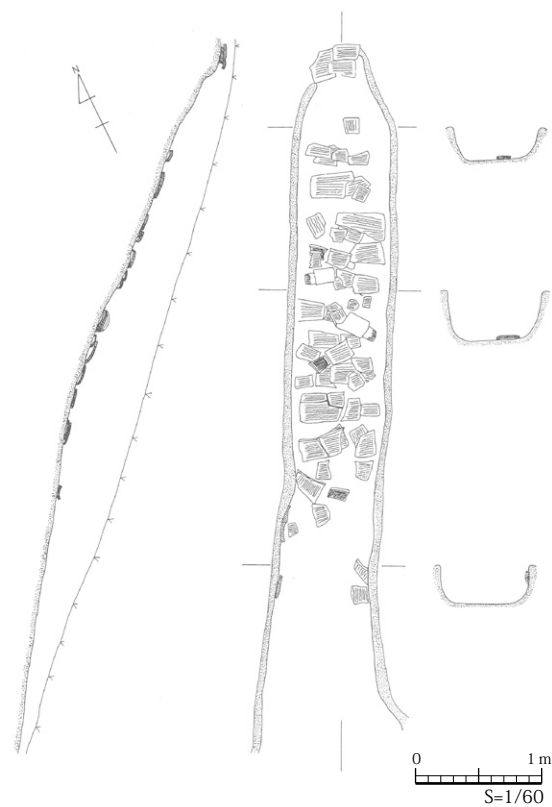
第2図 遺構配置図 (文献2・3)



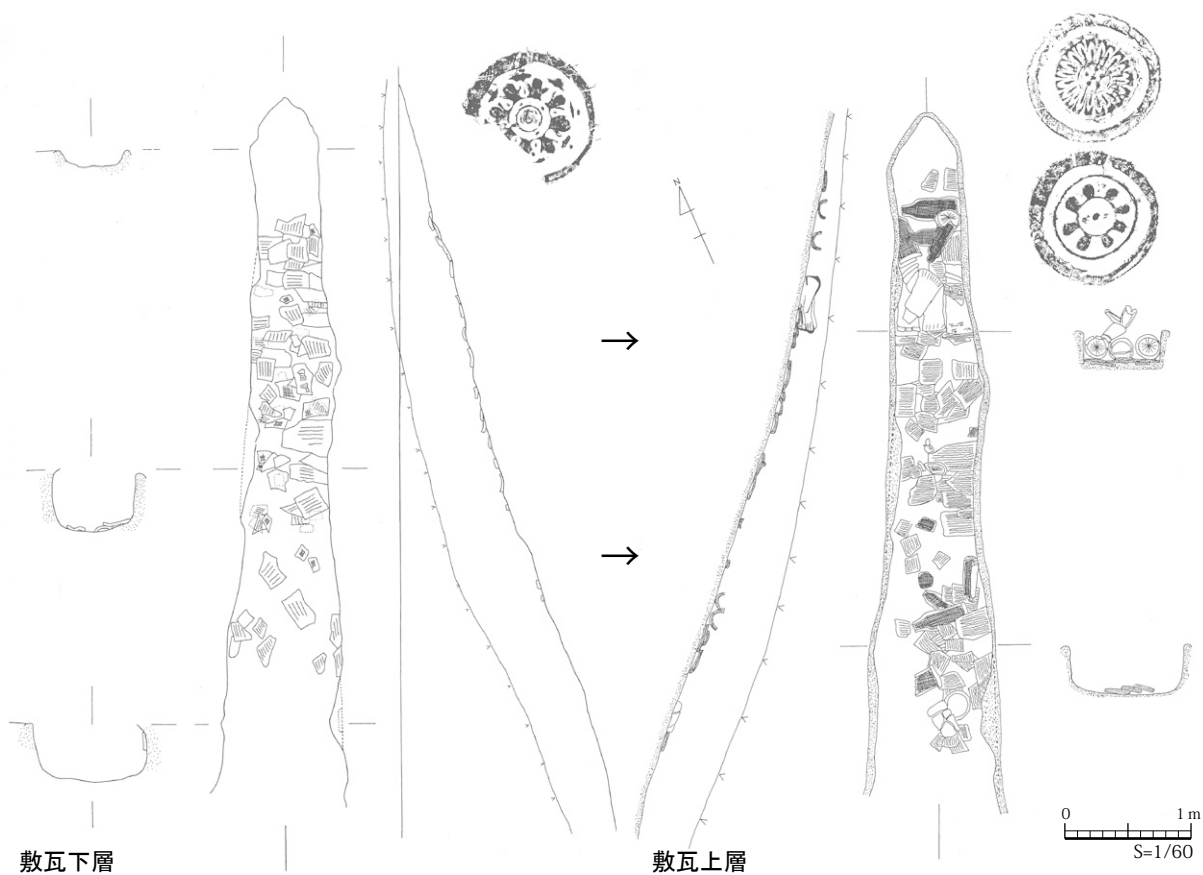
第3図 出土遺物 (文献3・5から作成)



第4図 第2号窯 (文献2・3)



第5図 第3号窯 (文献2・3)



第6図 第4号窯 出土遺物の時期差 (文献2・3から作成)